

大和インベストメント コンファレンス東京 2011

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&AD MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

2011年3月10日

**取締役社長
江頭 敏明**

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

・MS &ADホールディングス	(=MS &ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
・MS &AD、MS &ADグループ	(=MS &ADインシュアランス グループ)
・MSIG	(=三井住友海上グループホールディングス(株))
・三井住友海上、MSI	(=三井住友海上火災保険(株))
・あいおい損保、IOI	(=あいおい損害保険(株))
・ニッセイ同和損保、NDI	(=ニッセイ同和損害保険(株))
・あいおいニッセイ同和損保、ADI	(=あいおいニッセイ同和損害保険(株))
・三井ダイレクト損保	(=三井ダイレクト損害保険(株))
・三井住友海上きらめき生命	(=三井住友海上きらめき生命保険(株))
・あいおい生命	(=あいおい生命保険(株))
・三井住友海上メットライフ生命	(=三井住友海上メットライフ生命保険(株))
・三井住友海上プライマリー生命	(=三井住友海上プライマリー生命保険(株))

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS &ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

Why invest in MS&AD ?

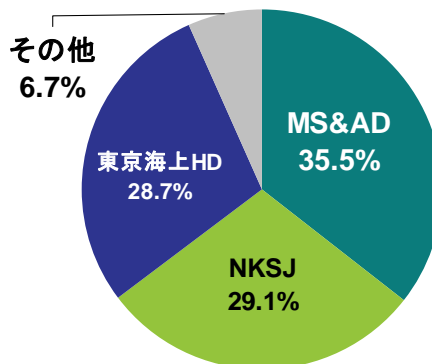
1. At a glance

1 セグメント

- 損害保険
- 生命保険
- 個人年金保険

2 日本国内でのシェア

損保・正味収入保険料^{*1}
(2009年度ベース)



3 グローバルポジション

損保・収入保険料ランキング
(2009年度ベース)

	保険会社	収入保険料
1	アリアンツ	4.76兆円
2	ステート・ファーム	4.57兆円
3	アクサ	3.31兆円
4	AIG	2.86兆円
5	チューリッヒ	2.72兆円
6	リバティ・ミューチュアル	2.64兆円
7	MS&AD	2.52兆円

各社2009年度決算資料を2010年3月末為替レートで換算

4 MS&ADの強み

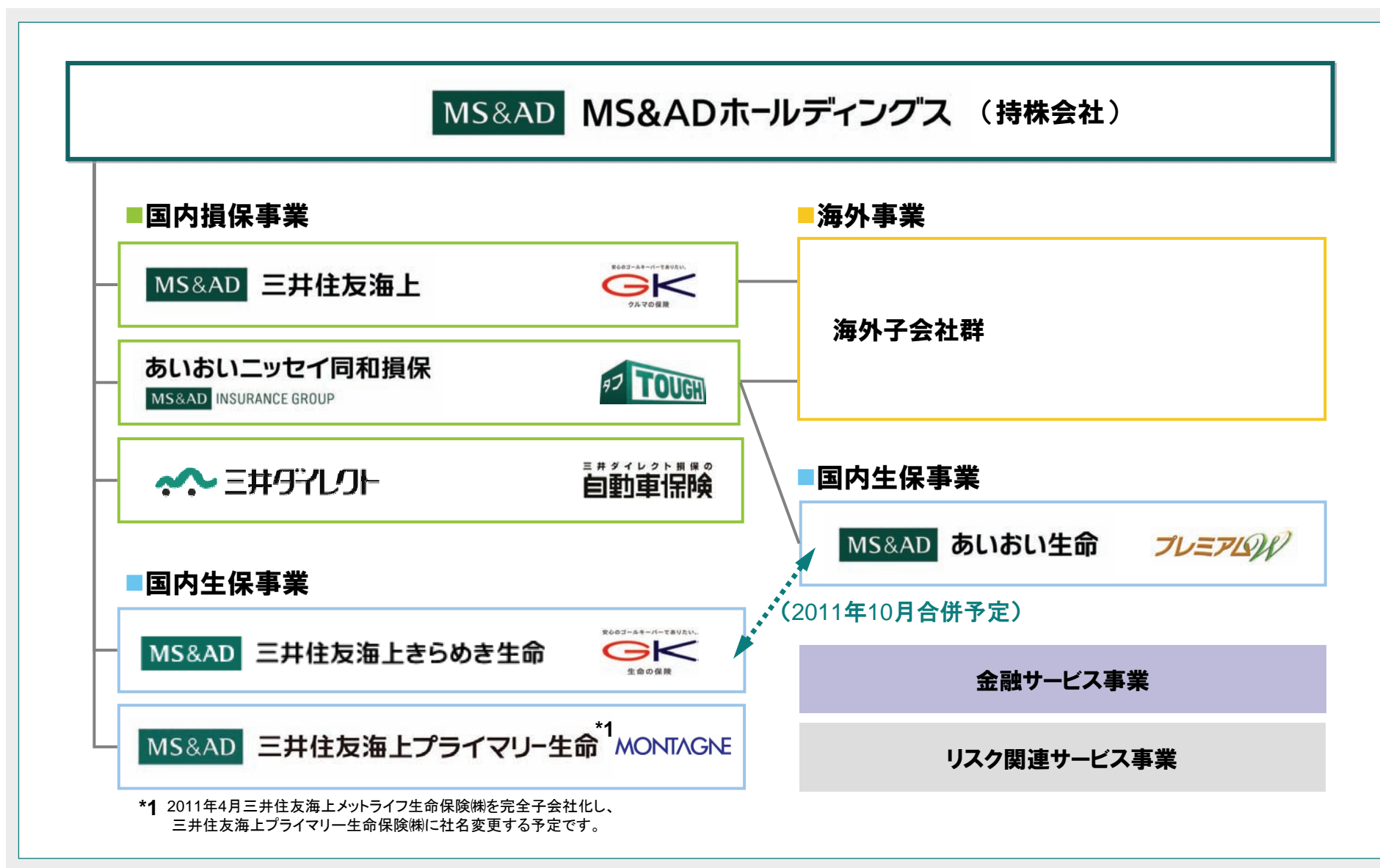
- 背景市場としてのトヨタ、日本生命、三井グループ、住友グループという顧客基盤
- 損保の国内成長を牽引する大手生命保険会社との損保分野提携ビジネス
- 環境変化を捉えたインターネット損保ビジネス、医療保険・個人年金保険事業の展開
- アジア各国での高い域内プレゼンス

5 格付け情報

(2011年2月末現在)

格付会社	MSI	ADI
S&P	AA-	AA-
Moody's	Aa3	A1
A.M.Best	A+	A

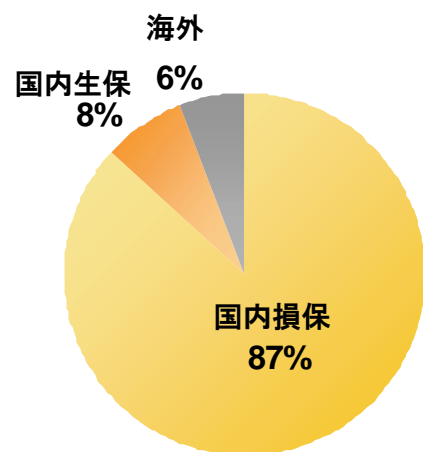
*1 出所: 国内大手9社決算発表資料に基づきMS&ADホールディングスにて作成
(「MS&AD」は三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保、「東京海上HD」は東京海上日動、日新火災、「NKSJ」は損保ジャパン、日本興亜損保の単純合算値で比較)



2010年度第3四半期決算(9ヶ月)ベース

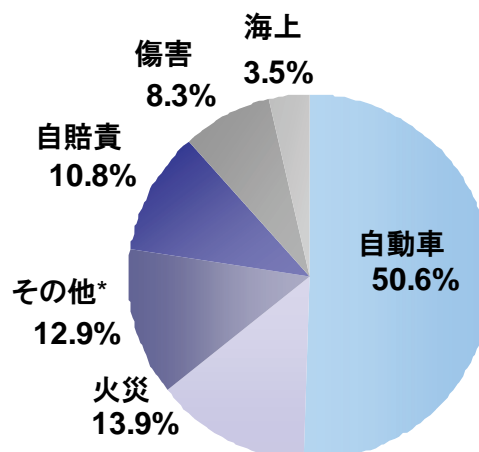
1 事業領域

経常収益



2 保険種目別内訳(損害保険)

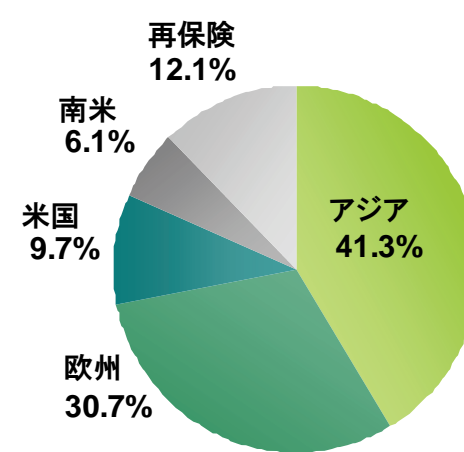
正味収入保険料



*その他: 新種および運送等

3 海外:地域別内訳

正味収入保険料^{*1}



*1 海外保険子会社のみを集計値

◆2010年度通期予想

経常収益 3兆3,600億円

経常利益 710億円

MS&ADホールディングスは「配当」と「自己株取得」を通じ、「グループコア利益」の50%を目処に株主還元を行う。

※ 2004～2007年度は三井住友海上の実績値。2008年度はMSIGの実績値 (単位: 億円)

(グループコア利益の計上年度→)		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度 ^{*3}
グループコア利益 ^{*1}	(a)	286	739	649	660	31	338
配当総額(年間)	(b)	136	185	198	225	226	329
	(b) / (a)	48%	25%	31%	34%	729%	97%
自己株式取得額 (「グループコア利益」計上翌年度の取得額)	(c)	120	115	70	40	100	100
総還元額 ((b) + (c))	(d)	256	300	268	265	326	*4 { 429
株主還元率 ((d) / (a)) ^{*2}		90%	41%	41%	40%	1,057%	127%

*1 2008年度までの「グループコア利益」定義は以下のとおり
(MS&ADホールディングスにおける現定義と若干の差異あり 参照:P.5)
「グループコア利益」
= 連結当期純利益
- 株式キャピタル損益 - クレジットデリバティブ評価損益
- 生保子会社連結利益
+ MSIきらめき生命 標準責任準備金積増前利益
+ MSIメットライフ生命 US-GAAPベース持分利益
+ 他

なお、2008年度までの「目処とする還元割合」は「グループコア利益」の40%

*2 以下のような方法で算出 <「2008年度」の例>

$$\frac{\text{2008年度に関する配当(2008年12月、2009年6月)} + \text{2009年度に行った自己株式の買付け}}{\text{2008年度の「グループコア利益」}}$$

*3 2009年度の「グループコア利益」ならびに「配当総額」は、「MSIG」・「あいおい損保」・「ニッセイ同和損保」の合算値

*4 2011年2月末時点までの数値

Why invest in MS&AD ?

1. At a glance

2. Significant profit recovery in prospect

1 国内損保事業

- 自動車を中心とした収支改善の取組み
- 統合シナジー効果^{*1}の発揮による事業費の削減
- 生保提携による更なる収益拡大

2 国内生保事業

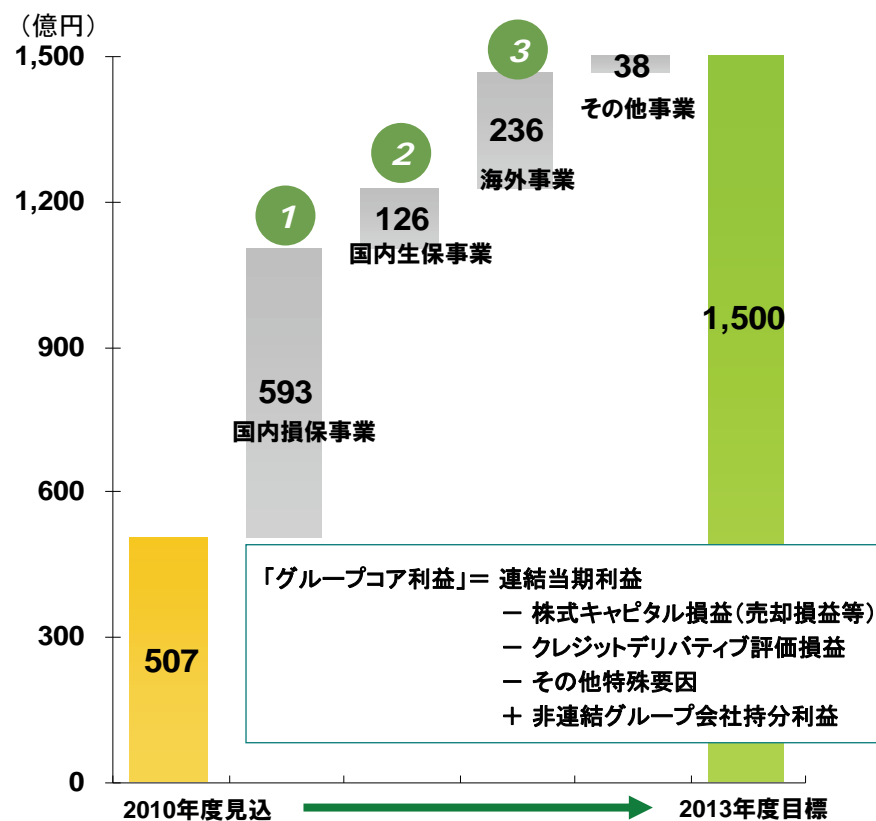
- 三井住友海上あいおい生命^{*2}の収益貢献
- 三井住友海上プライマリー生命の完全子会社化による収益貢献

3 海外事業

- 肥沃な保険市場であるアジアの事業基盤を活かした収益のオーガニックグロース
- 加えて、アジア、欧州を中心に事業投資(M&A等)による収益上乘せの可能性

^{*2} 2011年10月三井住友海上きらめき生命とあいおい生命は合併し、三井住友海上あいおい生命となる予定です。

グループコア利益 1,500億円の達成構造



*1 統合シナジー効果(2008年度対比)	
システム関連コスト削減効果	130億円
人件費物件費等削減効果	260億円
営業等相乗効果	70億円
合計	年450億円 以上

Why invest in MS&AD ?

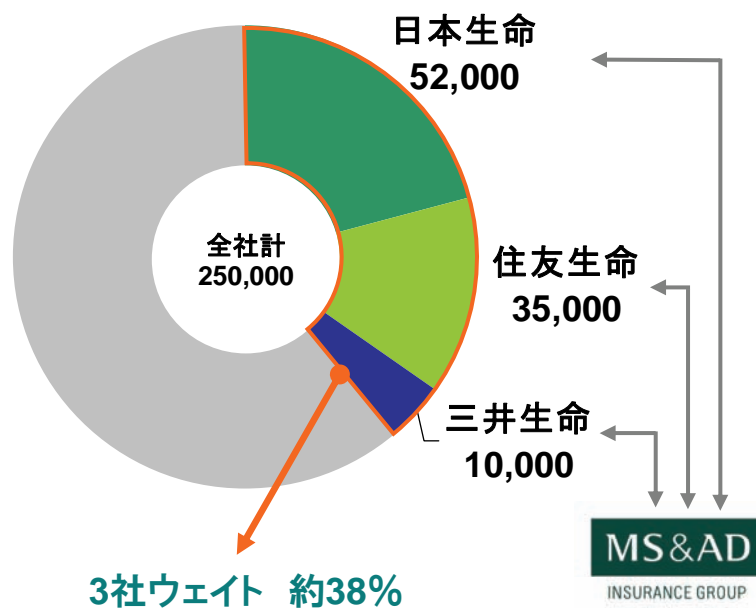
1. At a glance
2. Significant profit recovery in prospect
- 3. Growing business opportunities**

■ 生命保険会社の営業職員が損害保険商品を販売するビジネス戦略

⇒MS&ADにとって：販売網が大幅に拡大することによる増収基盤の拡充

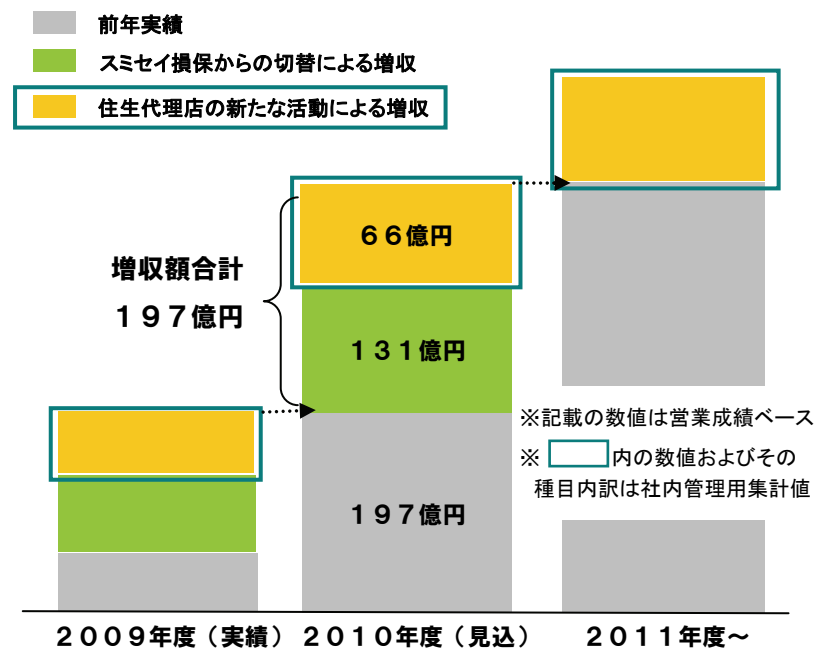
⇒提携する生保各社にとって：フィー・ビジネス(代理店手数料)による収入の拡大

生命保険会社の営業職員数(名) (概数) *



■ 三井住友海上では、住友生命の営業職員(約3万名)が損保商品を販売し大きく増収に貢献

住友生命提携の増収推移



*出所：インシュアランス生命保険統計号 2010年版 よりMS&ADホールディングスにて作成

1 生命保険の保障見直しニーズ(=切り替えチャンス)は大きい

◆ 加入保障内容の充足感



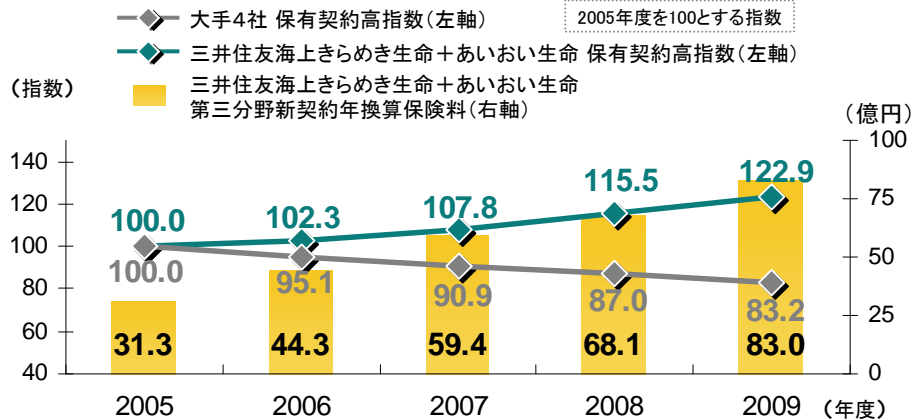
- 生命保険の世帯加入率は90.3% *1
しかし、
- 高齢化、社会保険制度の先行きへの不安から、現在の保障内容を不十分と考えている世帯は32.6% *1
- 約65%の人が医療保障について今後準備をしたいと考えている。*2

出所：生命保険文化センター *1 生命保険に関する全国実態調査（2009年度）

*2 生活保障に関する調査《概要》（2010年度）

2 ニーズを掘り起し成長するMS&AD生保ビジネス

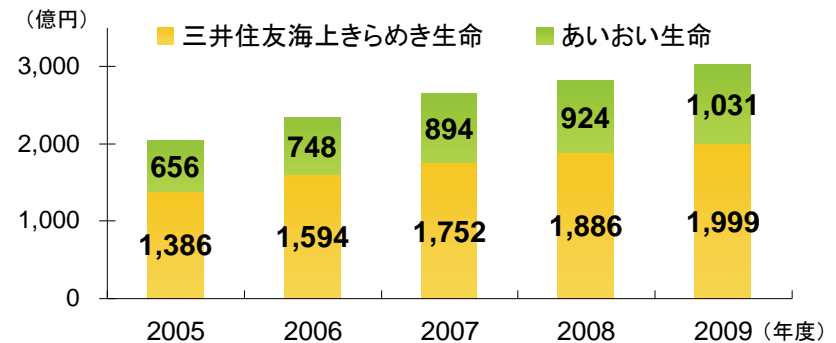
コンサルティング(保障の見直しと医療保障ニーズの取り込み)による、新契約保険料と保有契約高の伸び



3 着実に収益を積み重ね、グループに貢献

グループの生保2社は、着実にEVを増加させている。

三井住友海上きらめき生命とあいおい生命のエンベディッドバリュー"EV"(年度末)*3

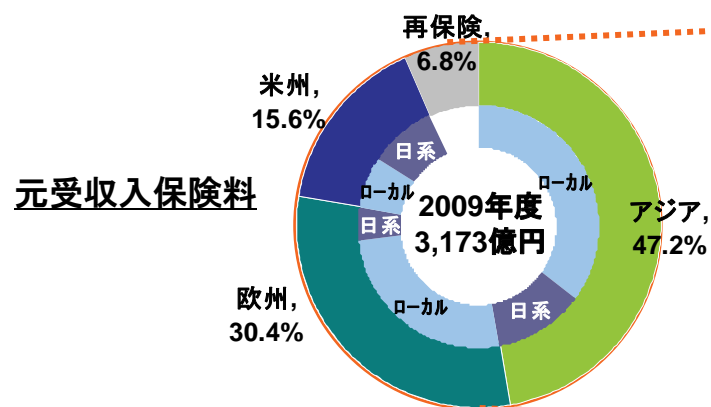


出所：インシュアランス生命保険統計号 2010年版および会社資料よりMS&ADホールディングスにて作成
大手生保4社保有契約高は各社の開示数値を合算、三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の第三分野新契約年換算保険料は、両社の開示資料から「医療保障・生前給付保障等」の新契約年換算保険料を合算

*3:TEV(伝統的エンベディッド・バリュー)

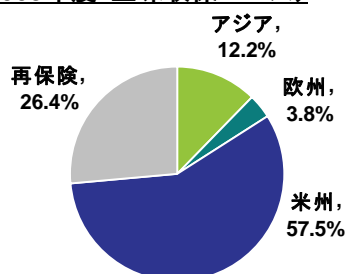
■「日系ビジネス」と「ローカル・ビジネス」をバランスよく展開する。

◆MS&ADグループの海外事業



■ Reference

国内同業他社(A社)の
海外保険事業(うち損保)のポートフォリオ
(2009年度・正味収保ベース)



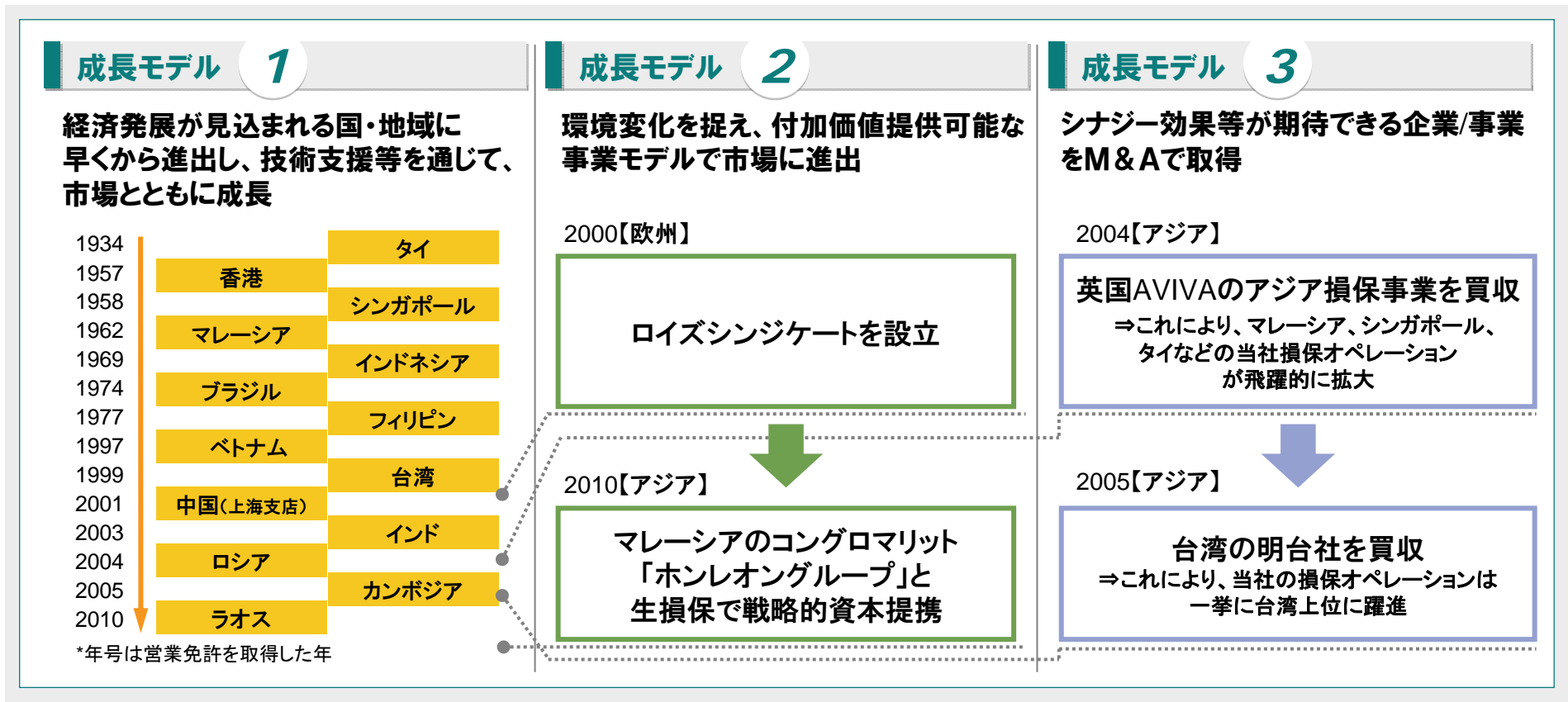
出所: A社IR説明資料(2010年6月)に基づき
MS&ADホールディングスにて作成。

1 日系ビジネス: 経営統合により日本における顧客基盤が拡大

→ 充実した海外拠点網で、海外における日本企業の保険ニーズを捕捉

2 ローカル・ビジネス:

→ 海外の有望マーケット(損保・生保)において、
M&Aや現地企業との戦略的資本提携等を通じて収益基盤を拡大



今後も、これらの成長モデルを多地域に展開

- 重点地域はアジアと欧州
- 特にアジアでは損保と生保の両面展開を指向

資本投入に当たっては、以下のような切り口から潜在価値を総合的に判断

- 市場の成長性
- 外資規制(緩和見込を含む)
- グループ戦略との整合性
- ROI
- シナジーの発現見込み
- リスク

アセアンをはじめとした アジア各国での高い域内プレゼンス

MS&ADの元受グロス保険料(損保): 2009年度の順位

- シンガポール: 2位
- マレーシア: 4位*
- フィリピン: 3位
- タイ: 5位
- 台湾: 4位

* ホンレオンとの資本提携により2011年度の順位は2位となる見込み。

(出所: 各国の保険当局より開示された
損保元受収保などのデータに基づき、
MS&ADホールディングスにて作成)

アセアン計では欧州系損保・米国系損保・本邦系他社を
凌駕し、外資系最大

アジア損害保険市場の高い収益性

アジア地域におけるコンバインドレシオの推移

FY2005	FY2006	FY2007	FY2008	FY2009
93.2%	90.6%	89.7%	93.1%	90.0%

* 数値は三井住友海上の海外事業ベース

* コンバインドレシオ: 正味損害率と正味事業費率の合計値で、保険会社の収入・支払ベースの収益性を表す指標。

Point!

アジアにおいては、M & A等に加え、
地元資本と組んだ資本提携も成立

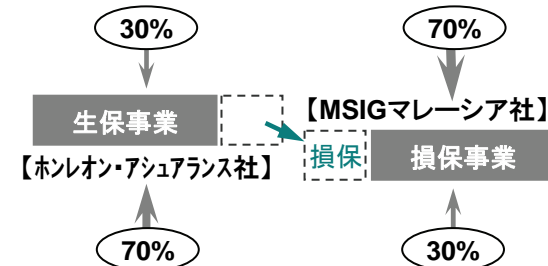
→ 互いの規模とノウハウを活かした戦略的提携

マレーシアのコングロマリット
「ホンレオングループ」との資本提携の例
(発表: 2010年6月)

■ 三井住友海上:
(ホンレオングループ傘下)ホンレオン・アシュアランス社の
30%株主に

(取締役1名派遣、社員4名出向)

マレーシアの生保事業に進出



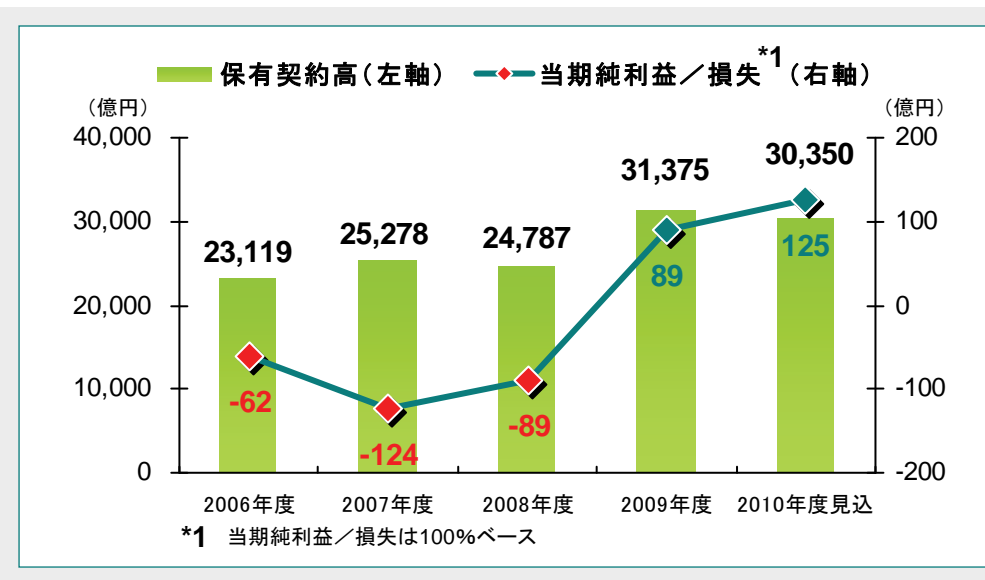
■ ホンレオングループ:
(三井住友海上傘下)MSIGマレーシア社の
30%株主に

三井住友海上は、ホンレオングループ傘下のタカフル(イスラム金融における保険類似制度)事業会社にも出資予定。
(発表: 2011年3月)

1 広がる個人年金市場

MS&AD 三井住友海上プライマリー生命

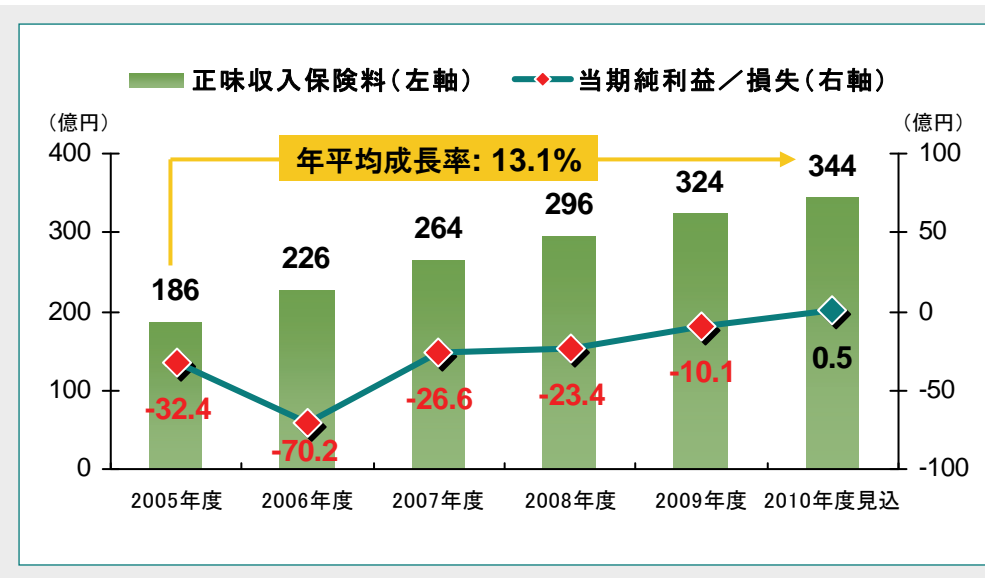
- 個人年金保険のマーケットリーダーとして、個人年金保険に特化し、金融機関チャネルを中心に販売
- 再保険の活用により、最低保証リスクをコントロールしながら、保有契約高を拡大させることにより収益・利益を拡大
- 本年4月完全子会社化により、グループ収益への貢献が高まる。



2 ネット化の流れへの対応

三井ダイレクト

- 2000年に営業を開始。国内ではインターネット特化型通販保険会社のパイオニアとしてプレゼンスを確立
- 2009年度の自動車保険元受正味保険料国内通販系損保中 第2位
- 今年度黒字化を見込む



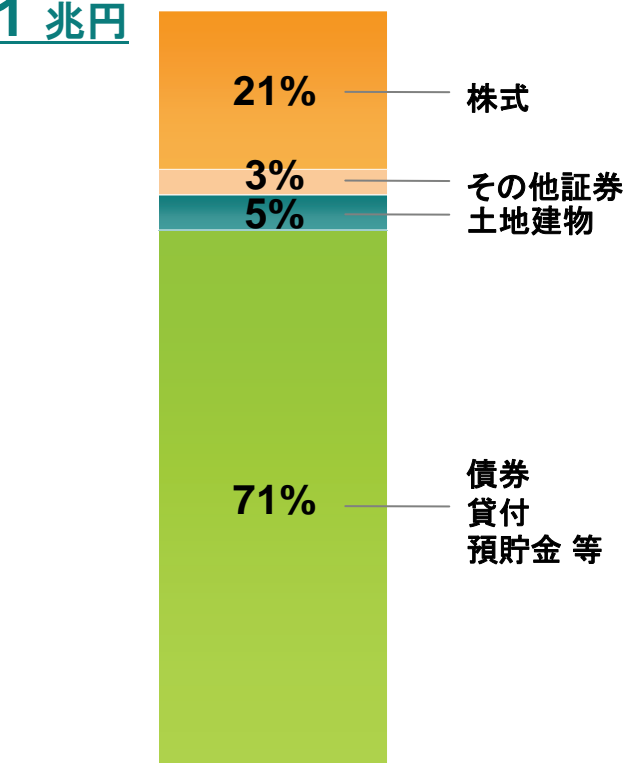
Why invest in MS&AD ?

1. At a glance
2. Significant profit recovery in prospect
3. Growing business opportunities
- 4. Solid investment portfolio and capital base**

(2010年9月末現在)

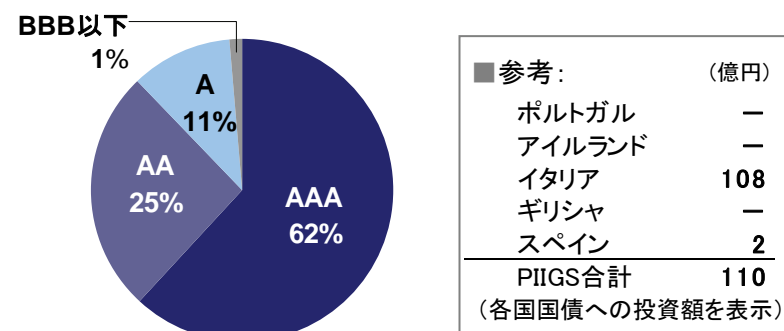
分散と安定性を重視した資産配分

総運用資産
(連結ベース)
¥ 10.1 兆円



良質な債券ポートフォリオ

債券ポートフォリオ* の格付け構成



* グループ保険会社6社 (MSI、IOI、NDI、三井ダイレクト損保、三井住友海上きらめき生命、あいおい生命) の合算値

金利リスクのコントロール

- ALM管理により、各種リスクを適切にコントロール
- 感応度の試算

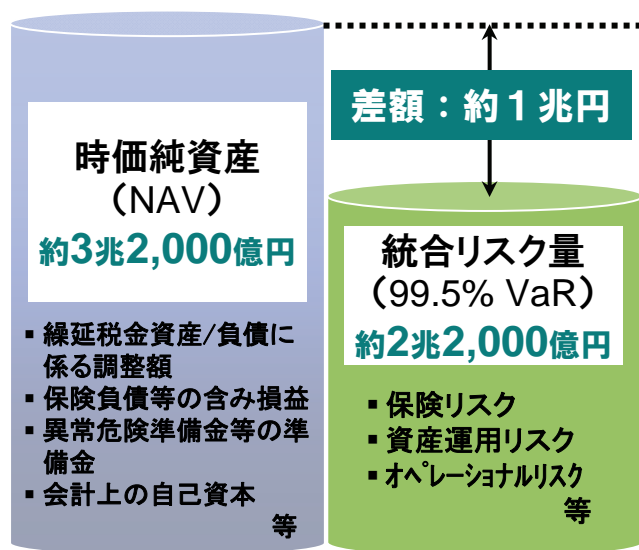
円金利が100bp上昇した場合の時価変動額 (資産・負債ネット)

三井住友海上の場合
およそ▲100億円
(ほぼニュートラル)

- グループの「時価純資産」と「統合リスク量」を社内モデルにより定期的に算定、モニタリング。
- 今後の規制動向等を引き続き注視しつつ、モニタリングの枠組みを更に精緻かつ実効性の高いものにしていく。

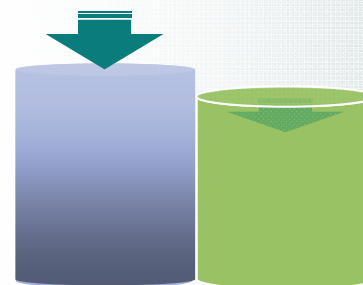
1. 「時価純資産」－「統合リスク量」の計測

2010年9月末現在(グループ全体ベース)



2. ストレスシナリオ下での「時価純資産」－「統合リスク量」の計測

- 株価、金利等下落や円高、自然災害が発現する想定を置いたストレステストの実施
- 過去データに基づく「最大下落率」や「ワースト水準」を考慮



各種リスクの計測に適用している信頼区間: 「99.5% VaR」
 (「ソルベンシーII」基準で採用予定の水準と同等)

アラーム
管理

資本政策への反映に当たって考慮している要素

- 資本を構成する各項目の変動性、利用可能性
- 健全性評価に関する格付会社のスタンス
- 内外ソルベンシー規制の中期的動向
- 決算予想や経営計画の遂行状況 等

Why invest in MS&AD ?

1. At a glance
2. Significant profit recovery in prospect
3. Growing business opportunities
4. Solid investment portfolio and capital base
- 5. Our challenges**

短期的要因

事故発生件数の増加 1

- 交通量の増加
(高速料金の低額化、景気回復など)

発生保険金単価の上昇 2

- 自動車部品の原材料価格上昇

中期的要因

保険料単価の減少 3

- 高齢化と若年層の車離れ
(ノンフリート等級・年令条件進行)
- 小型車両へのシフト

事故発生件数の増加 1

- 高齢者ドライバーの事故増加
- 非走行リスク(小額事故)の増加

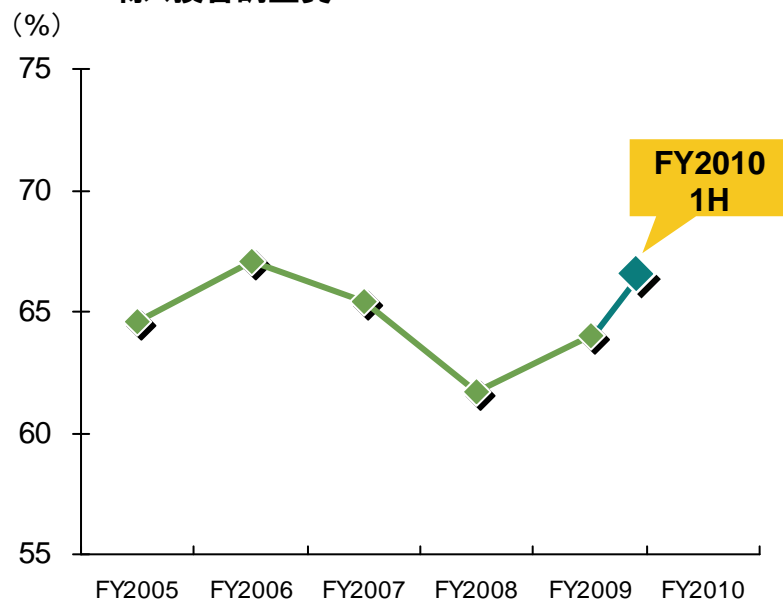
< 損害率悪化の要因分析 >

$$\begin{array}{c} \text{損害率} \uparrow \end{array} = \frac{\text{発生保険金}}{\text{経過保険料}} = \frac{\begin{array}{c} \text{1 事故発生件数} \uparrow \\ \times \\ \text{経過台数} \end{array}}{\begin{array}{c} \text{2 保険金単価} \uparrow \\ \times \\ \text{3 保険料単価} \downarrow \end{array}}$$

◆ E.I 損害率

除く損害調査費

(三井住友海上)



収支改善の取組み

1 料率改定

- 2010年10月に料率改定を実施
- 足下の損害率状況を見ながら引き続き料率見直しを検討

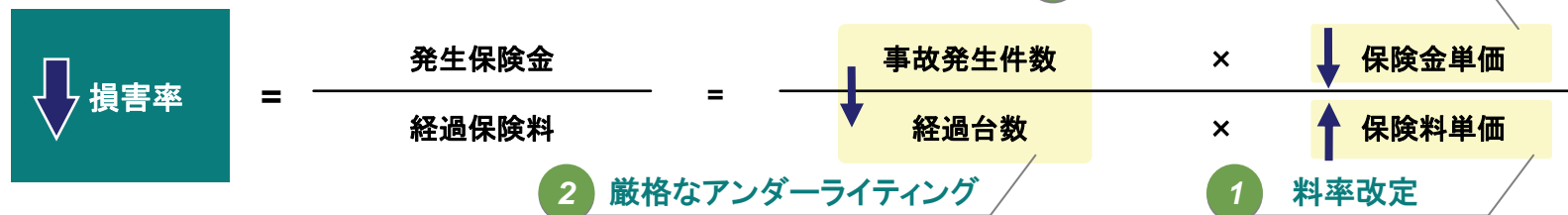
2 厳格なアンダーライティング

- 事故頻度の悪化している車両保険、フリート契約についての引受厳格化

3 迅速かつ適正な支払の徹底

- 査定プロセスの継続的見直しによる迅速かつ適正な支払の担保

< 収支改善取組みと効果 >

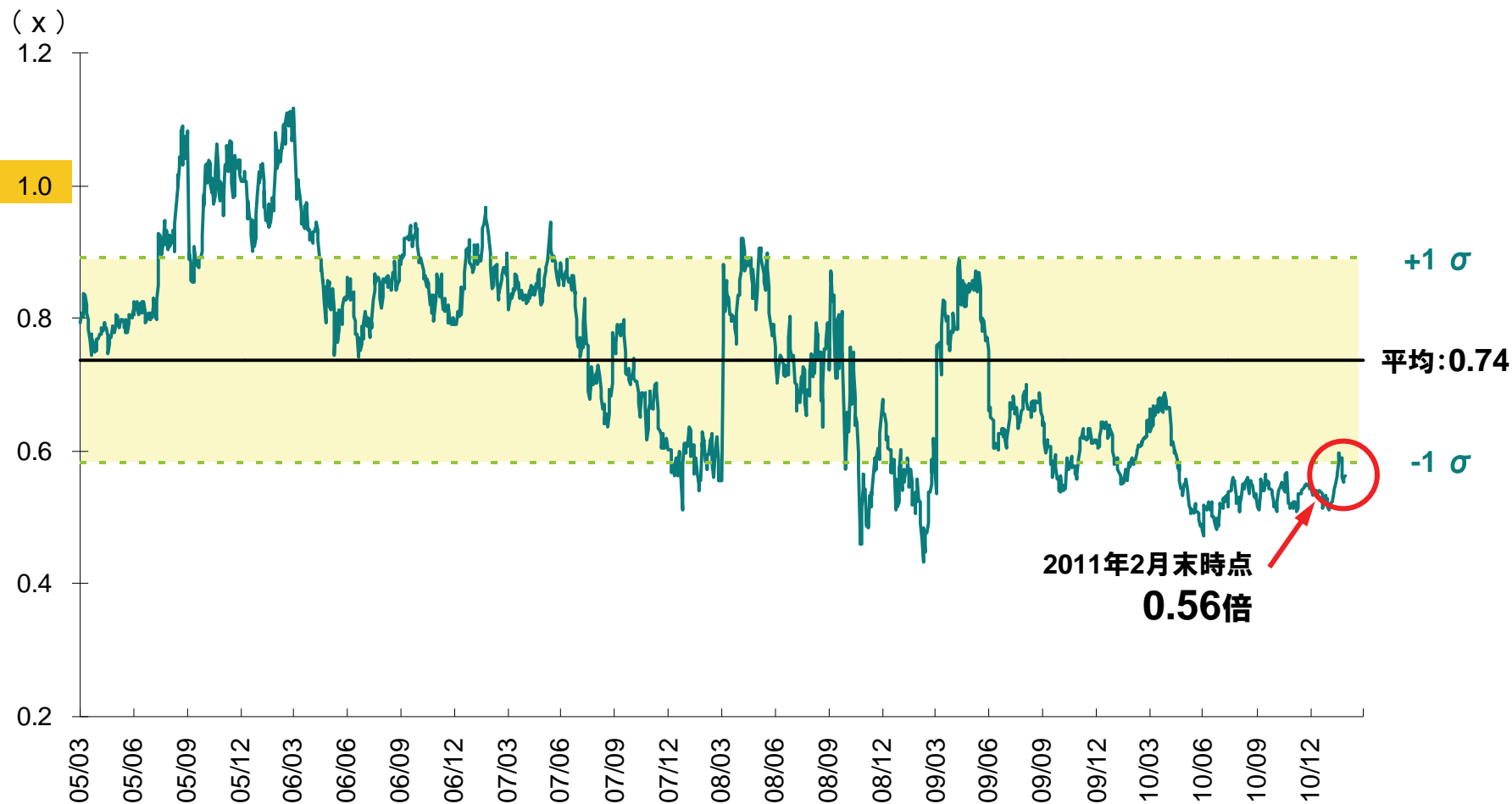


Why invest in MS&AD ?

1. At a glance
2. Significant profit recovery in prospect
3. Growing business opportunities
4. Solid investment portfolio and capital base
5. Our challenges
- 6. MS&AD / An attractive investment**

修正PBR

〔 純資産に税引後の異常危険準備金・価格変動準備金等を加えた修正純資産ベース 〕



Appendix

◆ 主要項目

(億円)

	2009年度 第3四半期	2010年度 第3四半期		
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	18,959	19,168	209	1.1%
経常利益	1,337	960	△ 377	△ 28.2%
四半期(当期)純利益	873	583	△ 290	△ 33.2%

※2009年度第3四半期は、MSIG(連結)、あいおい損保(連結)、ニッセイ同和損保(単体)の単純合算値。

三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどりッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載。以下同じ。

◆ 正味収入保険料の内訳

(億円)

	2009年度 第3四半期	2010年度 第3四半期		
			前年同期比	増減率
三井住友海上(単体)	9,046	9,227	180	2.0%
あいおいニッセイ 同和損保(単体)	8,314	8,292	△ 21	△ 0.3%
三井ダイレクト損保	235	241	5	2.5%
海外保険子会社	1,363	1,409	46	3.4%

※連結調整前ベース

◆ 四半期(当期)純利益の内訳

(億円)

	2009年度 第3四半期	2010年度 第3四半期	
			前年同期比
三井住友海上(単体)	482	425	△ 57
あいおいニッセイ同和損保(単体)	263	156	△ 106
三井ダイレクト損保	△ 7	1	9
三井住友海上きらめき生命	0	△ 53	△ 53
あいおい生命	13	2	△ 11
三井住友海上メットライフ生命	82	72	△ 10
海外保険子会社	142	49	△ 93
その他	5	△ 1	△ 7
連結調整等	△ 110	△ 69	40

※子会社の利益は、出資持分ベース

◆ 主要項目

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)		
			前期比	増減率
正味収入保険料	25,190	25,800	610	2.4%
経常利益	991	710	△ 281	△ 28.4%
当期純利益	573	400	△ 173	△ 30.2%

◆ 正味収入保険料の内訳

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)		
			前期比	増減率
三井住友海上(単体)	12,037	12,310	273	2.3%
あいおいニッセイ同和損保(単体)	11,067	11,310	243	2.2%
三井ダイレクト損保	324	345	21	6.4%
海外保険子会社	1,761	1,835	74	4.2%

※連結調整前ベース

※2009年度の「あいおいニッセイ同和損保」は、あいおい損保(単体)とニッセイ同和損保(単体)の単純合算値

◆ 当期純利益の内訳

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)	
			前期比
三井住友海上(単体)	254	330	75
あいおいニッセイ同和損保(単体)	212	20	△ 192
三井ダイレクト損保	△ 6	0	7
三井住友海上きらめき生命	0	△ 51	△ 51
あいおい生命	13	△ 10	△ 23
三井住友海上メットライフ生命	44	62	18
海外保険子会社	172	74	△ 98
その他	6	3	△ 3
連結調整等	△ 123	△ 29	94

※子会社の利益は、出資持分ベース

お問い合わせ先

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社 広報・IR部

TEL: 03-6202-5268 FAX: 03-6202-6882

E-mail : ms_ad_ir@ms-ad-hd.com

<http://www.ms-ad-hd.com/ir/index.html>